

と成つてしまつた。何故かといへば露西亞政府は此等の團體がその勢力を發展して、更に大なる團體になることを禁じたからである。往昔此の遊牧民が盛であつた時には、此の異姓を合併し統一して行くことが、彼等の勢力を保有しまた發展する所以であつたのだが、今はかゝる次第で、露西亞の治下にある遊牧民には、此の事が全く不可能に成つたのである。

以上は現今のキルギス族の社會生活の大要である。凡そ遊牧民の間には、古來その自身の間にある著しき文化の發達なく、また開明諸國から影響を受けたことも割合に少く、假令之と接觸してその文化を輸入すべき機會に遭遇しても、遊牧なる生活上の條件に支配せられて、之を受け入れることが出来なかつたから、今日彼等の營んで居る社會生活は、往昔に於る状態と大差ないものと思ふ。同時にまた注意すべきことは、彼等はかゝる理由によつて文明國の文化をこそ多く輸入しなかつたが、しかも同様の遊牧生活をして居る民族相互の間には、一方に行はれたことが容易に他方に移り得たもので、此の點については文明國相互の間に於るよりも、その傳播は遙かに容易であつたと見なければならぬことである。果して然らば此等遊牧民の歴史を研究し、その真相を捕へる爲には、現今に於る彼等の状態を知悉することが、第一の必要條件であらねばならぬ。彼等の社會状態について、史の記す所は極めて簡單で、そのみに依つては殆んど何等の事情も解り得ぬものが多いのであるが、現今の狀態より推せば必ずしも然らざるものがある。今試みに上に述べたキルギス族の社會生活を基にして、古史に記せる二三の事柄を解釋し、かねて現今の狀態が如何に古くから遊牧民の間に行はれて居るものであるかを探ねて